



Title	関西グローバルヘルスの集いオンラインセミナー第4弾 COVID-19 そのとき、現場は動いた！ 第2回：行政・保健所編
Author(s)	小松, 法子
Citation	目で見るとWHO. 2022, 80, p. 29-29
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/89359">https://doi.org/10.18910/89359</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 第2回:行政・保健所編



創価大学看護学部

### 小松 法子

看護師として病院で勤務をした後、2009-2011年青年海外協力隊員としてタンザニア連合共和国に派遣。帰国後、大阪大学大学院人間科学研究科博士前期課程に進学し、修了後2015年より現職。

COVID-19の流行が続く中、日々の生活や様々な報道で保健所の役割や業務について耳にすることも増え、保健所や行政の取り組みに注目が集まっています。第2回行政・保健所編では、COVID-19対応の最前線では何が起っていたのか、実際の状況や取り組み、課題について現場のお話を聞く貴重な機会になりました。

まず初めに、東京都八王子市保健所所長の渡邊洋子さんより、『COVID-19 そのとき、現場は動いた！八王子保健所の場合』と題し、感染が拡大する中、八王子市保健所でどのようなことが起っていたかご報告をいただきました。八王子市は56万人が住む中核都市であり、2021年11月末の時点で1万人を超す感染者が出ています。第5波の8月には感染発生届けが1か月間で約3,900件にのぼり、1件1件の事例に対して濃厚接触者の確認や療養先の調整、自宅療養されている方の健康観察等に組み込まれていました。従来から、保健所は感染症の発生予防と感染症のまん延防止のミッションを担っていましたが、COVID-19の流行によって業務が拡大されて、医療機関で行われるような重症度の判定や救急搬送先の調整等、自宅療養者に対する臨床的な対応も保健所で行われていました(図2)。保健所に対して、自宅療養をされている方から不安や不満をぶつけられたり、病院や世論からは厳しい意見があったり、様々な多忙な業務と厳しい意見との間でとても大変だった状況がひしひしと伝わってきました。このような大変な状況の中で、たくさんの

応援が届き、保健所の方々の力となっていったことも紹介していただきました。

続いて沖縄県立中部病院の高山義浩さんより、『感染症に強い地域社会をめざして』と題して、沖縄で取り組まれた感染対策についてご報告をいただきました。沖縄では、他の地域に比べて大きな感染拡大が起きました。地域の特性から感染拡大を起ししやすい状況があったり、積極的に検査を行ったことで感染者数の増加につながったりしたのではないかと考えられていました。高齢者施設、病院、学校等では、陽性者が1人出るとスクリーニングのために全員に対してPCR検査を行い、感染流行状況の把握と感染拡大防止の指導が行われていました。また、感染の流行が疑われる地域に対しては、モニタリング検査で幅広くPCR検査を行い、その地域での感染状況をアセスメントして、流行が確認されたらその地域の集団に対して公衆衛生的な対応が行われていました。検査を受けた人が差別を受けたり、不利益になったりしないよう守られる仕組みを、検査と一緒に実施していくことが大切であることを教

えていただき、社会的に弱い立場で支援が届きにくい外国人やシングルマザーの方々など、一人一人の背景や習慣を知り、どう感染から守っていくことができるか、社会的な支援に繋げていくことができるか、考えていくことが大切であることがよくわかりました。

パネルディスカッションでは、大変なことが多い中でも、地域で行政も含めた多職種の人が関わり合い、顔が見える関係ができたことや、保健所と病院、福祉、学校との情報共有などの協力ができるようになったことなど、COVID-19が終息した後も役立つネットワークが作られたというポジティブな変化も教えていただきました。COVID-19によって、今まで注目されてこなかったことや、社会の課題や弱いところが見え、私たちの生活や社会の仕組みを色々見直す機会となりました。この機会を活かして、誰もが生きやすい安心して暮らせる社会に変わるきっかけにしていけるのかなと感じ、大変な現場の中にたくさん大切なものがあるのだなど実感しました。

保健所の感染症業務		新型コロナ業務
10		
ミッション：感染症の発生予防、感染症のまん延防止		
1. 普及啓発	感染予防対策市民向けの普及啓発	
2. 相談対応	一般相談、医療相談	
3. 事例対応	①感染者発生時 ア 発生届のHER-SYS入力 イ 積極的疫学調査(患者行動調査、施設調査) ウ 濃厚接触者対応(PCR検査、保健指導)・施設消毒指導 エ 療養先(病院、ホテル、自宅)の調整、患者移送、 オ 感染症法にかかる文書事務 入院勧告、就業制限、消毒命令、など ②検査 濃厚接触者・COCOA(接触者確認アプリ)からの通知者に対して実施(採取) ③自宅療養者の健康観察・受診先調整 (毎日電話等で、健康状態を確認し、必要な医療提供)	
4. その他	患者登録、ホームページ公表、マスコミ対応、データ分析	

図2：渡邊さんの資料より(赤字がCOVID-19によって増えている業務)